

桜の友

第41号

共立女子第二高等学校同窓会
八王子市元八王子町1-710
TEL042(661)9952

会長のご挨拶

小室 洋子

同窓会会員の皆様、今冬は例年より寒暖差が大きかったように思いますが、つつがなくお過ごしでしょうか。

さて、今年度は第二中学校創立四十周年を迎えます。私事ですが、高校生から急に中学一回生の担当になり随分戸惑いつつ手探りで授業をしておりました。今思えば本当に恥ずかしい限りですが、当時の経験はその後の教員人生に少なからず生かされたように思います。一回生の皆さんには感謝しかありません。

ところで私たち高校一回生は古希を迎え、当時の先生方は八十代九十代になられますが今も交流を続けております。先生方

との距離の近さは昔も今も変わらず二高の良さと言えるのではないのでしょうか。二年後の秋の同窓会総会を待たずに、ぜひ同期会やクラス会の計画をお立てになってください。開催の支援につきましては詳細を「さくらつうしん」に掲載しております。

最後にご報告です。今年の元日の能登半島地震の際には皆様もさぞ驚き心配されたことと思います。同窓会では白垂祭で東日本大震災以来続けております岩手のお菓子販売金を被災地への義援金として日本赤十字社を通じて送らせていただきました。同総会でも何らかの形で支援を続けていくにあたり、ご提案をお寄せいただけますと幸いです。



不安なできごとも多く見聞きいたします。今日この頃ですが、どうぞ皆様、お身体を大切に過ごしてくださいませ。

共立第二を支える力

校長 晴山 誠也

卒業生の皆様、いかがお過ごしですか。日頃は母校の発展のため、様々なご支援をいただき、教職員を代表して心より感謝申し上げます。また、年初に発生した能登半島地震において、被災された卒業生あるいはその関係者の方もいらつしやるかも知れません。心よりお見舞い申し上げます。

さて、今年も三月十七日に高校第五十二回卒業式が行われました。改修工事を終えたばかりの八王子講堂にて、コロナ禍前の本来の形式で在校生・卒業生が校歌や蛍の光を合唱することができ、これまで以上に感慨深い卒業式になりました。今や卒業生の数は約一万二千人に及んでいます。今回の卒業生たちも皆様と同様、様々な分野でしつ

かりと根を下ろし、花開くものと期待しています。

話は変わりますが、本校で三年間あるいは六年間過ごしてきて途中で、皆様の共通の思い出の一つにスクールバスがあるのではないかと思えます。運行開始の一九七七年（昭和五十二年）以来四十七年間、生徒たちの登下校や校外活動の足として働いてきました。当初は、少し強面のドライバーさんたちが多く、新入生などは緊張した面持ちで乗車していましたが、実は心優しい方々ばかりで、ある意味で我々教員の一員として働いていただいたと言っても過言ではない、今もそれは変わりありません。

二〇一一年、東日本大震災の折には、近隣の駅で足止めされていた生徒を乗せて学校に戻してくれただけでなく、学校に残っていた生徒約二百五十名分の温かいお弁当を運んでくれたりもしました。

警備員さんや施設設備の方々も本校にとって欠かせない存在です。24時間、厳しい目で安全

確保に勤めつつ、生徒に気さくに挨拶や声かけをしてくれま
す。設備の方々は、常に校内の
美化と環境整備に勤め、来校者
の方々は口々にその美しさに驚
かれています。本校を選択す
る際のきっかけの一つにもなっ
ています。

共立（共に立つ）はその名の
通り、こういった力があつてこ
そと改めて強く思うとともに、
生徒たちには感謝の気持ちを忘
れずに日々の学校生活を送って
もらいたいと願っています。

今後とも母校への熱きエール
をよろしくお願いいたします。

第五十回生 成人を祝う会

二〇二四年一月八日、晴れや
かな日差しの下、成人式が挙
行されました。その午後には学年
の先生方をお招きして、第五十
回生の二十歳を祝う会を開催し
ました。久しぶりに集った友人
の晴れ姿に感極まっている姿が



見られました。会では高校時代
の写真のスライドショーを上映
し、思い出に浸りました。五〇
回生は新型コロナウイルスの影
響により行事は少なかった高校
生活ではありましたが、ハイブ
リッド文化祭や応援ダンスなど
の思い出を懐かしみました。卒
業しても三年・六年で育まれた
絆は変わらないようでした。ま
た大学で挑戦していることや近
況を先生方に嬉しそうに報告す
る姿も見られました。卒業後そ
れぞれの進路に進んだ卒業生
が、さらに各々の人生を歩んで

いく節目となった日
でした。
成人という節目を
迎えた五十回生の新
たな門出を祝う会と
なりました。ご協力
いただいた同窓会の方
々に深く感謝申し
上げます。

第五十回生

神田 怜奈
笠井 瞳



第十三回生 三年六組クラス会

令和五年六月三日土曜、八王子の料亭なか安にて、『第十三回生三年六組クラス会』を開催。東京、神奈川、埼玉、そして福島、栃木から、十四名が集まり、三十八年振りの再会になりました。

こちらは、令和四年十月の『同窓会発足五十周年記念同窓会』で、クラスメイトとの再会を機に、幹事七名と翌年六月のクラス会に向けて準備を進め、担任の宮地三男先



生とは、五十周年記念同窓会時にお話しできた後輩により繋がることとができ、やりとりして参りましたが、開催二ヶ月前の四月に他界なさりしました。奥様やお嬢様より、「本人も参加するつもりで、カレンダーに日程を書き込んで楽しみにしておりました。出席できず残念ですが、きっと皆様のそばで嬉しそうな顔をして見守っていることでしょう。」とお言葉をいただき、クラス会

当日が、四十九日の法要の日ということで、『宮地先生を偲ぶ会』とし、先生との思い出や感謝、そして当時の懐かしい話を一人一人から聞かせてもらいながら、現在五十七歳の私達、共立女子第二高等学校で過ごせた日々は、青春を謳歌し、人生の中でもとても重要な時間だったと、しみじみ噛み締め合うことができました。

「参加メンバーからの感想」
「みんなの顔を見ていたら、だんだん記憶の蓋が開いてきて、高校時代のみんなと今のみんなが繋がってきました。宮地先生に改めて感謝。」
「クラス会のお知らせを聞いた時に、何かとても楽しみにしている自分が

居ました♪皆に会いに行つて良かった！覚えてくれてありがとう！また、会える日を楽しみにしています。」

「クラス会実現してくれてほんとにありがとう！そしてコロナが晴れて皆で集まれてほんとに良かったね。久しぶりに何着てこう？とか髪染めなきゃ！とか考えるのも楽しかった。皆が変わらずの笑顔で素敵だったのも嬉しかった！楽しい一日をありがとう！」

「今日はみんなに会えて本当に嬉しかったです。あつという間に高校時代に戻れました。」

「久しぶりにみんなに会えて、高校時代の記憶を呼び戻して、普段使っていない脳をめちゃくちゃ使った気がします。また会いたいね。」

「遠方から着てくれた方も近くから来てくれた方も感謝感謝です。皆と話しているうちに色んな事が呼び起こされました。」

「今日は本当に楽しかった！皆さ



んの記憶の良さにびつくりでした。(笑)

「楽しい時間でした。みんな、あの頃と変わらずにいてくれてありがとう。」

お陰様で素敵なクラス会が開催出来たことで、今回参加出来なかったメンバーにも声を掛け合いながら、定期的に集まっていきたいと話しています。

この度は、二高同窓会様からご支援いただき、感謝いたします。

第十三回生 池田祐子

第七十四回八王子夢街道駅伝
陸上部OG風を切る

陸上競技部OGは、石川敬逸先生のご指導のもと、「八王子夢駅伝」に出場しています。今年で三度目となります。チーム名は「K2 黙古寿(もっこす)」。二十回生の阿天坊さん経営の老舗ラーメン店「黙古寿」から命名しました。日頃より、陸上部OGがお世話になっているお店です。

今年度は、十月十四日土曜に黙古寿にて決起集会を開催。石川先生をはじめ、三浦正則先



生、河先眞弓先生、OG五回生から四十五回生が集まりました。お土産交換や近況報告で盛り上がり、最後は駅伝へ向けて、練習日程の確認。あつという間の二時間半でした。

十一月から練習会スタート。土曜日の午後、懐かしの共立グラウンドに集合し、石川先生からメニューをいただきます。昔のように動けません、みんなでジョグをして、タイムを計り、少しずつ調整していきます。時には現役部員とともに走ることもありました。

いざ、本番。晴天に恵まれた二月十一日の日曜、親子以上(??)の世代差を越えて、たすきをつなぎました。「最初の二百メートルはとばさず、最後の二百メートルはダッシュで」の教えを守り、二チームとも完走。沿道からの大きな声援はありがたいかぎりです。

河先眞先生・河先眞弓先生・三浦正則先生には、当日のサポートをしていただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

- 【一般女子の部 14.2km】
- K2 黙古寿Aチーム (1:16:43)
 - 1区(47回生)～2区(20回生)
 - ～3区(45回生)～4区(25回生・サッカー部)
 - K2 黙古寿Bチーム (1:18:16)
 - 1区(7回生)～2区(20回生)
 - ～3区(8回生)～4区(7回生)



駅伝完走後は、黙古寿に集合し、健闘を称えあいました。石川先生には、退職されてからもご指導いただけたいことを、陸上部OG一同感謝しています。世代を越えて一つになれるのは、石川先生の求心力のおかげです。

今夏には四年に一度のOG会を共立二高で開催予定。もちろん、次回の八王子夢駅伝に出場し、このご縁を大切に繋いでいきたいと感じています。

第十九回生 田中元女

第五十三回 白亜祭

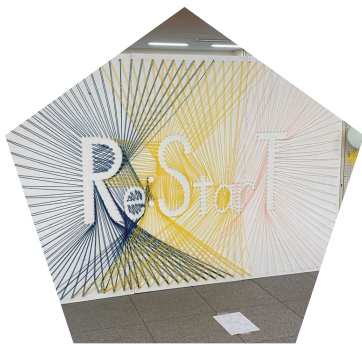
令和五年九月十六日・十七日の二日間「Re:start」をテーマに第五十三回白亜祭が開催されました。今年は、来場制限もなくなり、新型コロナウイルス流行以前とほとんど同様の形で実施することが出来ました。四年以上に一般の方の来場も可能となり、両日とも例年以上に多くの人で賑わっていました。校舎内の階段や渡り廊下など様々な場所で工夫を凝らした迫力ある装飾が施されていました。



本校の魅力の一つである自然豊かな広い敷地を存分に使うて各団体が日頃の成果や今まで準備してきたものを思う存分発揮しました。

中学一年生は八王子子についてクラスごとに文化・自然・歴史について調べ発表をしました。紙粘土で制作した模型の展示や、デバイスを活用して工夫された発表でした。中学二年生は、昨年引き続き企画展をしました。三クラスとも縁日でしたが、それぞれコンセプトが異なっていてクラスカラーに染まった企画でした。中学三年生は、修学旅行で行く京都・奈良

について調べ、発表しました。調べたことをもとにクイズや迷路を作り、お客様も楽しみながら学ぶことが出来るものでした。装飾も京都、奈良のイメージにあつた装飾が施されています。高校生はクラスごとにアトラクションや飲食の企画を催していました。どの団体も教室の外観から室内の装飾が凝っており、世界観が作られています。アトラクション団体はお化け屋敷や、ゲーム企画、縁日、コーヒーカーップなどワクワクするものばかりでした。飲食団体はカフェや駄菓子屋さんが多く見られました。それぞれ世界観が異なり、素敵でした。高校生のどの団体も素晴らしい企画でした。



我々幹事も、例年と同様に休憩室を設けさせていただきました。東北復興支援のお菓子と昨年共に卒業した第五十一回生の同級生が宮野園さんのお茶を販売し、多くの方が購入してくださいました。卒業しても、このように白亜祭に携わることができ大変嬉しく思います。白亜祭実行委員をはじめ、生徒会役員の方々、先生方、来場してくださった皆様、そして生徒の皆様のおかげで今年の白亜祭も素晴らしいものとなりました。感謝申し上げます。来年度の白亜祭にもぜひ足を運んでいただければ幸いです。

第五十一回生 波多野実日子

藤原優花



タム留学 ニュージーランドへ

同窓会会員の皆様は、共立女子第二高等学校にあるタム留学制度をご存じでしょうか。タムとは英語で、学期・期間を意味します。高校一年生の三学期、約七十日間をニュージーランドで学びます。私たちは英語科の入江一実先生に、タム留学について詳しく教えていただいたのでご報告いたします。

タム留学に参加するのは、新設された英語コースの生徒全



員と、その他のコースの希望した生徒です。以前から夏季海外短期研修はありますが、タム留学は約三か月とより期間が長く、現地の生徒との交流を深めることができます。

タム留学で目指してほしい目標を伺いました。留学を通して生徒に英語で様々な人とコミュニケーションをとる楽しさを感じてもらいたい、とのことでした。高校一年生での留学で壁にぶつかることもあります。それを乗り越えることで英語力や思考力の向上に繋がります。そして精神的に成長できることから、高校生活の早い段階で



海外経験ができることは大きな意味があると説明してくださいました。

留学先での生活について教えていただきました。令和四年度に参加した生徒たちはホームステイをし、家庭的な雰囲気の中で学ぶことができました。ホストファミリーや留学先の学校の先生や生徒と関わりながら生活します。生徒は現地で六つの学校に分かれます。家庭科や数学など英語以外の科目の授業も現地の生徒と共に受けます。休日はホストファミリーと過ごし、一緒に料理をしたりどこかに出かけたりなど様々な経験ができて

ます。長期留学ならではの魅力だと感じます。

留学を終えた生徒の皆さんは英語力の向上以外にどのような変化があったのでしょうか。入江先生は、生徒たちが前向きに多面的に物事を考え、表現できるようにになったと感じたそうです。

最後に、共立女子第二として今後英語教育のどのようなところに力を入れていきたいか伺いました。入江先生は、読む・聴くだけでなく自分が思ったことを表現する「アウトプット」にも重点を置いた教育をしていきたいと考えているそうです。書く・話すことにも力を入れるため、生徒のレベルを考慮した指導をしていきたいと話してくださいました。

第五十一回生

小野由夏莉
千葉美里



恩師は語る

シリーズ三十六

数学 坂田洋介先生



Q. 共立第二に勤めて何年ですか？

A. 多分、十七年目です。

Q. なぜ教師になろうと考えたのですか？

A. はっきりとは覚えていません。学校生活が好きだったのかもしれないし、そうではない部分もあったかもしれませんが。Q. なぜ数学の教師になったのですか？

A. 元々は体育の教員になりました。研究に向いてないと思い、教員の道を選びました。

Q. 共立第二の好きな場所はどこですか？

A. 中庭の畑です。

Q. 共立第二の好きな学校行事は何ですか？

A. 普通の日常のやり取りが楽しいと思います。何か具体的な行事を一つだけ選ぶのは難しいですが、強いて挙げるなら修学旅行。日常と非日常が混ざり合う空間で、例えば、終わっていない宿題を持ち込む生徒もいました。日常の延長線で様々なやり取りをすることが楽しいです。

Q. 共立生のいいところは？

A. 良くも悪くも友達を受け入れるところ、様々なことを消極的に捉えず、前向きに考える姿勢を感じるところです。

Q. 卒業生へのメッセージを。

A. 自分の価値観や仕事に対する考え方などは二十代、三十代になっても変わらないと思っていたが社会の環境や自分の生活によって変化することも沢山あります。変化を恐れずに周りの人達とその瞬間、瞬間を大切に楽しんで欲しい。それが出来るのが共立生だと思います。

第五十一回生 内藤煌莉

中坂夏海

家庭 湊理香先生



Q. 教師になったきっかけを教えてください。

A. 大学時代の塾講師のアルバイトと教育実習を通して教えることの楽しさを知りました。

Q. 共立女子第二の魅力とは何だと思いますか？

A. 自然豊かで伸び伸びと生活が出来るところ。自分らしさが見つけられるところ。

Q. 共立での思い出を教えてください。

A. 旧校舎の中庭にたくさんいたウサギやキンケイチョウと遊んだことや白亜祭最後のグラウンドでのキャンプファイヤー。Q. 担任として生徒にはどのようになつてほしいですか？

A. 共立で学んだことをどこかで活かせる仕事につき、幸せになつてほしいと思います。常に

自分らしさが発揮できる空間にいてほしいと思います。

Q. 授業で大切にしていることはありますか？

A. 生徒たちの感じていることや意見を引き出しながら授業をしていきたいです。

Q. コロナ禍での生徒との向き合い方はどのようにされていますか？

A. とにかく対面で会う喜びを実感し、直接話すことを大切にしていた。特にリモートの際には、画面越しに元気な顔をお互いに見せ合うことでした。

Q. 家庭科の授業で好きな項目は何ですか？

A. 大学で被服を専攻していたので被服と食物分野が好きです。法被づくりと草餅づくりは共立女子第二のの伝統ですね。

私たちの学年はコロナの影響で制限が多くありましたが、湊先生は優しく、親身になって生徒たちに寄り添ってくださいました。

第五十一回生 射場彩歌

高橋希実

母校の香り

私たちは二〇二三年三月、六年間または三年間を過ごした共立女子第二中学校高等学校を卒業しました。

私たちの高校生活はコロナウイルスと共に始まりました。当たり前の日常が、どれほど幸せだったのか気付かされ、何気ない日常の幸せをかみしめながら三年間を過ごしました。しかし学校生活には多くの制限があり思い描いていた高校生活とは違った形になってしまいました。そんな中でも何とか前に進もう、青春を築こうと、仲間と試行錯誤したこの三年間は、きつと私たちの人生の糧となるでしょう。

卒業生となり早一年が経った今でも時折、共立で過ごした素敵な日々や仲間のことを思い出します。この素敵な思い出や経験を糧にして一生懸命、前へ前へと歩んでいきます。

第五十一回生副会長 藤原優花

きんぎょさん

§教職員人事§

▽三月定年退職職員（敬称略）

内野 清美（社会）

▽三月退職職員（敬称略）

入江 一実（英語）

§訃報§

▽令和五年四月、元数学科教員の宮地三男先生が逝去されました。長年にわたり数学教育、卓球部の顧問として熱心に取り組まれました。心より感謝し、謹んでお悔み申し上げます。

§お知らせ§

▽同期会・クラス会について
同期会・クラス会等の援助をしておりますが、希望される場合代表の方が担当までお問い合わせ下さい。現在クラス単位で五千円を補助、宛名ラベルの印刷も承っております。

§お願い§

▽進路指導部より
「職場体験」（中三対象十一月頃）

「社会人の体験談や生き方講演」
進路指導の一環として、右を引き受けて下さる方を求めています。ご連絡お待ちしています。

（担当 萩原 進路指導部主任）

▽講師採用事前登録者募集

中学校・高等学校の教員免許をお持ちの方は履歴書を学校長宛にお送りください。状況に応じてご連絡差上げます。

▽白亜祭を応援して下さい！

どの年代の方々にも思い出深い「白亜祭」、後輩たちの活動をボランティアで応援していただけたら幸いです。アイデアをお持ちの方はぜひご連絡ください。お待ちしております。

（担当 石井 生徒部主任）

▽住所等変更のお届け

転居先不明で郵便物が戻らないようご協力ください。住所や地番、姓名等変更の際は、会員ご本人直筆の文書またはフックスで、同窓会宛に会員番号宛名

下の五桁の番号、不明の場合は

卒業年と担任名を明記の上お知らせ下さい。セキュリティの関係でメールではお受けできません。なお、ご友人からの連絡はご本人に確認致します。

また値上げ前の葉書でお知らせいただく際は不足分の切手をお貼り下さるようお願い致します。なお、海外への発送等は受けできませんので国内のご家族等のご連絡先をお知らせください。

§顧問より§

※能登半島地震被災者応援のために同総会でできそうなご提案をお寄せください。例えば「白亜祭」にて販売、実演等、よろしく願います。

※同窓会へのお問い合わせ等は左記の学校の代表電話、またはフックスでお願いします。

☎ 042-661-9952

Fax 042-661-9953

※印刷物での会報誌をご希望の方はご連絡ください。

（担当 湊・田中

宮崎・一條）

《幹事紹介》

《第五十二回生》

副会長 藤原優花 (一組)
 会計 千葉美里 (五組)
 幹事 波多野実日子 (一組)
 竹馬 栞 (二組)
 羽瀬 環 (二組)
 射場彩歌 (三組)
 高橋希実 (三組)
 内藤煌莉 (四組)
 中坂夏海 (四組)
 小野由夏莉 (五組)

《第五十二回生》

副会長 栗澤優奈 (二組)
 会計 石橋茉奈 (二組)
 幹事 佐々木実育 (一組)
 鈴木奏音 (一組)
 宮崎 葵 (一組)
 菅原心結 (三組)
 中西唯友 (三組)
 内藤暖乃香 (三組)
 井下陽菜 (四組)
 原島真緒 (四組)
 宮本千怜 (四組)
 檜本咲花 (五組)
 染谷真那 (五組)

《同窓会顧問教諭》

高島千鶴子
 湊 理香
 田中元女
 宮崎麻由
 一條步未

▽ 主な学校行事

- 4月5日 (金) 入学式
- 6月1日 (土) 体育大会
- 7月22日 (月) ~ 8月31日 (土) 夏期休暇
- 9月14日 (土) 15日 (日) 白亜祭
- 9月30日 (月) ~ 10月2日 (水) 中学2年ブリティッシュヒルズ研修
- 10月1日 (火) ~ 10月4日 (金) 中学3年京都奈良修学旅行
- 10月1日 (火) ~ 10月4日 (金) 高校2年北九州修学旅行
- 12月23日 (月) ~ 1月9日 (木) 冬期休暇
- 1月22日 (水) 高校推薦入試
- 2月1日・2日・4日 中学入試
- 2月10日・12日 高校一般入試
- 3月17日 (月) 高校卒業式
- 3月19日 (水) ~ 春期休暇



2023年度 共立女子第二高等学校同窓会 会計報告

2024年3月31日

1.前年度繰越金	(A)	<u>2,910,227</u> 円
2.収入の部	(B)	
52回生同窓会会費		1,728,000 円
銀行利子		24 円
白亜祭		73,250 円
大学祭		<u>7,500</u> 円
		<u>1,808,774</u>
3.支出の部	(C)	
桜の友印刷費(旧職員分)		44,880 円
// 郵送代		5,546 円
白亜祭		66,700 円
大学祭		5,989 円
義援金		30,000 円
慶弔費		36,500 円
銀行手数料		220 円
同期会・クラス会補助		35,000 円
交通費		<u>30,060</u> 円
		<u>254,895</u> 円
○残高	A+B-C	
	2,910,227+1,808,774-254,895	<u>4,464,106</u> 円
		次年度への繰越金
○資産		
定期預金		<u>1,500,000</u> 円
	会計	50回生笠井瞳 51回生千葉美里

2024年度 共立女子第二高等学校同窓会 予算書

2024年4月1日

1.前年度繰越金		<u>4,464,106</u> 円
2.収入の部		
53回生同窓会会費		<u>2,196,000</u> 円
3.支出の部		
桜の友印刷費(旧職員分)		50,000 円
// 郵送代		8,400 円
通信費		10,000 円
学校行事支援費		100,000 円
運営費		50,000 円
交通費		50,000 円
事務費		50,000 円
予備費(慶弔費、クラス会・同期会補助)		100,000 円
雑費		<u>10,000</u> 円
		<u>428,400</u> 円